

食を通して笑顔をつなぐ 地元企業の熱意と使命



地域の美化活動に参加している従業員の皆さん。CSR活動を通して、職場での一体感も生まれた

環境問題と真摯に向き合い 地道な企業努力を推進

24時間、365日、人々の暮らしの身近にあるコンビニエンスストア。業界最大手、セブン-イレブンの店頭に並ぶ麺類をはじめ、多彩な軽食と総菜が地元の企業、タマムラ・デリカ株式会社で作られているのをご存じだろうか。

「今から30年前の1991年6月、北関東エリアにおけるセブン-イレブンの店舗拡大に伴い、当社が創業されました」。説明してくれたのは、同社の代表取締役社長、小島尚之さんだ。セブン-イレブンの店舗数が増えると共に事業を拡大し、人々の安全で便利な食生活を支えてきたとほほ笑む。

「明日ももっと、きちんとおいしく」を理念に掲げる同社が創業以来貢いてきた信条は、出来たてに近い商品をおいしく届けること。その思いはやがて、地域貢献や環境問題を解決するための取り組みへとつながっていく。その第一歩が、創業間もない時期から多くの従業員が参加している地域の美化活動だ。

道の駅・玉村宿を運営するタマムラ・デリカ株式会社。食を通して地域社会に貢献する同社の取り組みを、代表取締役社長の小島尚之さんに取材した。

大手コンビニエンスストア、セブン-イレブンの調理麺や軽食、総菜などの製造・開発をはじめ、道の駅・玉村宿を運営するタマムラ・デリカ株式会社。食を通して地域社会に貢献する同社の取り組みを、代表取締役社長の小島尚之さんに取材した。



群馬県産の上州地鶏を100%使用した、野菜たっぷりのおきりこみ

法人、株式会社タマムラグリーンファーム(TGF)を設立し、地産地消の推進や、輸送にかかる二酸化炭素の排出量と流通コストを抑え、より環境にやさしい商品が提供できる基盤を整えた。

2015年には、道の駅・玉村宿の食堂であるTama亭の運営をスタート。オープン3年目からは道の駅の指定管理業者として全体を統括し、オリジナル商品の開発やきめ細かなもてなしで、県内外の来客に玉村町の魅力を発信している。

食を通して人々に幸せを届けるのは、従業員たちの働きやすい環境づくりである。年齢や国籍、経験を問わず、幅広い人々を雇用している同社は、幼い子どもを持つ従業員も安心して働けるよう、本社工場近くに事業所内託児所FACEを設置。土日・祝日も

稼働し、子育て世代が安心して働く体制を整えている。

同託児所の大きな特徴は、食育に力を注いでいること。時には親子で参加できる農業・収穫体験なども開催し、従業員同士のコミュニケーションの場としても活用しているそうだ。

一方、コロナ禍のなか、地域の人々を支えるための新たな活動も始まつた。アルバイト先の飲食店が休業し、困っている学生をサポートしたいという行政から要望に応え、食料品の無料提供や、アルバイトの受け入れ体制を整えた。

この活動を機に、地元のフードバンクと協力した在留外国人や、医療従事者への感謝を受け入れ体制を確立。地域の一員として少しでも地元の皆さんのお役に立てることができ、従業員たちも喜んでいます」と小島社長は笑

1)従業員専用の託児所FACE。毎月旬の食材を使った食育イベントも開催している。2)自社農場TGFを開放して行われた中央小学校の農業学習。3)コロナ禍で困窮している群馬県立女子大学の学生を支援するために開催された食料品等の無料配布にも協力。4)新型コロナウイルス拡大のなか尽力する医療従事者に感謝を込め、角田病院へ食料を無償提供

Information
タマムラ・デリカ株式会社
佐波郡玉村町上福島 611-1
TEL.0270-65-0711
WEBはこちらから



App Store からダウンロード
Google Play で入手できます
『フリモAR』を検索

※AppleおよびAppleロゴは米国その他で登録されたApple Inc. の商標です。
App StoreはApple Inc. のサービスマークです。
Google PlayおよびGoogle PlayロゴはGoogle Inc. の商標です

フリモAR
アプリを
ダウンロード

文/佐藤京子 写真/篠原亨 写真提供/タマムラ・デリカ株式会社 デザイン/伊藤剛志

1週間ほどで習慣化され、作業現場におけるゴミ分別の重要性や、発展途上国の子どもたちにワクチンを届けるためのエコキャップ運動への理解も得られた。さらには、使用期限の切れた食材のリサイクルが進み、家畜の餌に有効活用する資源循環型サイクル確立にも結び付いたのである。

「職場での取り組みが商品開発にも生かされ、従業員の意識改革やゴミの削減、経費節約につながったことは、大きな気付きとなりました」と小島社長は話す。

これらの活動を商品づくりにも生かしたいと考え、セブン-イレブンとの共同開発で、ところそばの包装を改良。ところを入れるビニール袋を廃止し、仕切り型にしたところ、この便利さが消費者に好評となり、ヒット商品を生み出した。



Free AR
メッセージが
流れます



タマムラ・デリカ株式会社
代表取締役社長 小島尚之さん

現在、栃木県や茨城県にも工場を持ち、約720人の従業員を抱える同社。2006年に農業生産

創業31年目を迎える今、さらなる飛躍に向けて同社が掲げる目標は、100年後の先を見据えた持続可能な体制づくりだ。「そのためにも地産地消の推進や、品質向上に尽力し、地元の皆様と共に歩んでいきたいですね」と小島社長は前を向く。

私たちの便利で豊かな食生活を陰で支えるタマムラ・デリカ株式会社。人々の幸せを願う同社の軌跡は、未来へと続く。